

鳥居龍蔵の愛知調査関連資料Ⅲ

岡本 治代¹

はじめに

鳥居龍蔵は、1929（昭和4年）から1930年にかけて、愛知県史編纂の委嘱を受けて愛知県内の貝塚や古墳、巨石遺跡などの調査を行っている。筆者はこれまで、徳島県立鳥居龍蔵記念博物館（以下、「当館」とする）が所蔵する鳥居の愛知調査関連資料を紹介してきた〔岡本2017, 2020〕。本稿では、これに引き続き、拓本等の資料を紹介する。

1 愛知調査の行程

筆者は旧稿において、鳥居の著作から推定される愛知調査の行程を整理した〔岡本2020〕。しかしその後、当館における資料整理の成果を反映した鳥居の年譜が新たに公開され〔下田2020〕、これにより、従来、筆者が認識していた4回の調査（1929年11月15日～23日、同年12月7日～10日、同年12月23日～25日、1930年4月26日～5月3日）に加えて1929年1月7日～12日に、渥美半島に所在する現田原市で吉胡貝塚をはじめとする遺跡の調査を実施していることが確認できた。また、旧稿〔岡本2017〕において、鳥居が上記の4回の調査に加えて講演のために愛知を訪れていることを指摘していたが、講演概要をまとめた「愛知縣の上代史蹟を訪ひて」〔鳥居1929a〕の末尾に「本年一月十三日、本県主催県史に関する講演会に於ける講演概要」とあることから、この講演は1929年1月7日～12日の田原市での調査に続いて1月13日に行われたものと推定された。

こうした新たな情報を加えて、鳥居の愛知調査の行程を再度整理したのが表1である。鳥居は、第1回調査（昭和4年1月7日～12日）において渥美半島での調査と講演会を行い、第2回調査（同年11月15日～23日）で愛知県全域を面的に調査した後、第3回調査（同年12月7日～10日）で小牧・犬山市から岐阜県、第4回調査（同年12月23日～25日）で名古屋市周辺、第5回調査（昭和5年4月26日～5月3日）で西尾市をそれぞれ対象地域として、集中的な調査を行ったことができる。

以下では、この行程表を参照しつつ、資料の位置づけを検討したい。

2 資料の内容と採集地及び採集時期

資料の内容と、注記された出土地などの情報を整理するとともに、注記から推定される調査地（資料採集地）及び採集時期を考察したい。

1: 弥生土器の拓本である。「宝飯郡小坂井町 字 川出清彦方出土」との注記がある。同様の注記は、旧稿〔岡本2020〕で報告した図23～29の拓本にもみられるものであり、本資料も一連のものであろう。宝飯郡小坂井町は、現在の豊川市小坂井町にあたる。1929年11月22日の豊川市における調査に関連する資料と考えられる。

¹ 徳島県立鳥居龍蔵記念博物館

2：名古屋市東区東魚町（現 名古屋市中区東魚町）にあった中藤旅館の封筒である。表面に「幡豆郡 西尾貝塚」との注記がある。後述する3～5の拓本が入れられていた。1929年11月の調査の概要を記した「尾参通信」[鳥居 1929b]には、11月16日の宿泊先として中藤旅館の名がみえる。11月16日に中藤旅館で入手した封筒に、西尾の貝塚（現 八王寺貝塚）などで出土した土器の拓本を入れたのであろう。

3・4：縄文土器と弥生土器の拓本である。「西尾上町」との注記があることから、八王寺貝塚の出土資料と考えられる。1929年11月19日の八王寺貝塚発掘の際の資料であろう。

5：弥生土器の拓本である。「西尾町 久麻久神社 下ノ社附近」との注記があり、西尾市八ツ面町に所在する久麻久神社の出土品と考えられる。1929年11月19日の西尾市内での調査の際の資料であろう。

6～15：6～14は縄文土器、15は弥生土器の拓本である。いずれも「名倉村大名倉」との注記がある。現在の北設楽郡設楽町大名倉遺跡で出土した資料である可能性がある。

16～18：16は、円孔をもつ遺物の拓本である。円孔をもつ弥生土器や大珠であろうか。17は弥生土器、18は縄文土器の拓本である。いずれも「田口町笹平」との注記があり、現在の北設楽郡設楽町笹平遺跡の出土品である可能性がある。

19：縄文土器の拓本である。「東納庫 字 宇連」との注記があり、現在の北設楽郡設楽町東納庫字宇連で出土した資料である。

20～22：縄文土器の拓本である。「田口町マサノサワ」との注記があり、現在の北設楽郡設楽町小松マサノ沢遺跡で出土したものである可能性がある。

23：「田口町採集拓本」との注記のある封筒である。裏面にも注記が確認できるが、判読できない。6～22が入れられていた。

6～23はいずれも現在の北設楽郡設楽町の地名が記載されている。鳥居が愛知調査の概要を記した著作（鳥居 1929a・b・c, 1930a・b）においては、当該地の具体的な地名は確認できないが、1929年11月23日に豊川を遡り長野県境まで赴いたとの記述があることから、その際に採集された資料である可能性が想定される。旧稿[岡本 2020] 図1～12と一連の資料と考えられる。

24：内行花文鏡の拓本である。「桜井 大字 東町 私有 八ツ塚 桜井 大字 東町」との注記があり、現在の安城市東町向田にある八塚古墳で出土したものと考えられる。1929年11月20日～22日に矢作川流域の古墳を見学した際の資料であろう。

25：弥生土器の体部から底部にかけての拓本である。「桜井 二子古墳」との注記があり、安城市二子古墳で出土した資料と考えられる。24と同様に、1929年11月20日～22日の資料であろう。

26：須恵器の拓本である。「桜井」との注記があることから安城市桜井の調査時の資料と考えられる。

27～32：縄文土器の拓本である。「桜井」もしくは「桜井堀内貝塚」との注記があり、現在の安城市堀内貝塚で出土した資料と考えられる。1929年11月19日に堀内貝塚を見学した際の資料であろう。

33：中藤旅館の封筒である。「碧海郡 桜井村 出土器」との注記があり、24～32の拓本が入れられていた。2と同様に、1929年11月16日に宿泊した際に入手したものと考えられる。

34～40：縄文土器の拓本である。「上津具村 鞍舟」との注記があり、現在の北設楽郡設楽町津具にある鞍船遺跡の出土資料である可能性がある。1929年11月23日の調査における資料と考えられる。

おわりに

以上のように、本稿で紹介した資料は、1929年11月に実施した第2回調査に関連する資料であることが明らかになった。このうち23日の長野県境での調査については、鳥居の著作には具体的な調査地が記載されておらず、明確な足取りがつかめていない状況であった。そのようななかで、本稿で紹介した拓本において北設楽郡設楽町の地名（大名倉・笹平・宇連・マサノサワ・津具鞍船）を数多く確認することができたのは、ひとつの成果といえる。

当館では、愛知調査関連資料の整理を順次進めている。今後も継続的に資料を紹介したい。

参考文献

- 岡本治代 2017「鳥居龍蔵の愛知調査関連資料」『徳島県立鳥居龍蔵記念博物館研究報告』第3号，徳島県立鳥居龍蔵記念博物館
- 岡本治代 2020「鳥居龍蔵の愛知調査関連資料Ⅱ」『徳島県立鳥居龍蔵記念博物館研究報告』第4号，徳島県立鳥居龍蔵記念博物館
- 考古学会編 1929「吉胡の貝塚の発掘」『考古学雑誌』第19巻第2号，考古学会
- 下田順一 2020「鳥居龍蔵年譜（抄）」『鳥居龍蔵の学問と世界』思文閣出版
- 東京考古学会編 1930「学会消息」『考古学』第1巻第1号，示人社版
- 鳥居龍蔵 1929a「愛知縣の上代史蹟を訪ひて」『愛知教育』第495号，愛知教育会
- 鳥居龍蔵 1929b「尾参通信」『武蔵野』第14巻第5号，誠志堂印刷出版部
- 鳥居龍蔵 1929c「尾張の旅より」『武蔵野』第14巻第6号，誠志堂印刷出版部
- 鳥居龍蔵 1930a「尾張の二日間」『武蔵野』第15巻第3号，誠志堂印刷出版部
- 鳥居龍蔵 1930b「三河通信」『武蔵野』第15巻第5号，誠志堂印刷出版部

表1 愛知調査の行程

回	年	月	日	訪問地	調査遺跡・調査内容など	文献
第1回	1929 (昭和4)	1	7	渥美郡田原町(現 田原市) 木戸三樓	・みどり子とともに来県 ・伊奈田原中部小学校長と打ち合わせ	昭和4年1月10日付「新愛知新聞」「吉胡の貝塚の発掘」 考古学会編1929「吉胡の貝塚の発掘」『考古学雑誌』第19巻2号
			8	田原町(現 田原市)	・田原中部小学校を訪れ、同校所蔵の遺物を調査 ・伊奈校長の案内で田原城址寺寶寺の古墳、吉胡の貝塚、杉山村六連の竈跡その他田原町付近の遺跡の調査	
			9	田原町(現 田原市)	・吉胡貝塚を発掘	
			10	福江町(現 田原市)		
			11			
			12			
第2回	1929	11	15	名古屋⇒犬山	—	鳥居龍蔵1929「尾參通信」『武蔵野』14巻5号
			16	丹波郡二の宮神社(現 犬山大泉神社か)附近	・「尾張山下」との線刻のある須恵器、およびその出土地を調査 ・中藤旅館に宿泊	
			17	中島郡一宮附近(現 稲沢市)	・前方後円墳、弥生土器、石器などを見学 ・ストーンサークル・メンヒルを発見 ・「弥生土器に人形を彫ったもの」を見学	
			18	小牧山一帯⇒名古屋	・前方後円墳を見学 ・古墳出土の漢鏡、六朝鏡を実見 ・小牧山上でストーンサークルらしい跡を確認	
			19	西尾・岡崎附近	・西尾の貝塚(=八王子貝塚)・櫻井の貝塚(=堀内貝塚)・古墳を見学	
			20	矢作川流域	・古墳の調査	
			21	豊橋など矢作川流域	・矢作川流域の古墳見学	
			22	岡崎⇒矢作川以西地域⇒豊橋⇒豊川⇒豊橋	・豊橋：貝塚・銅鐸出土地の調査、前方後円墳を2基程度見学(馬具が多く存在) ・豊川：國府、國分寺、尼寺等を見学、夜間に拓本作成	
			23	豊橋⇒長野県境⇒東京	・豊川を溯り、長野県境へ移動	
第3回	1929	12	7	名古屋	・きみ子・龍次郎とともに名古屋に滞在	鳥居龍蔵1929「尾張の旅より」『武蔵野』14巻6号 東京考古学会編1930「学会消息」『考古学』第1巻第1号
			8	名古屋⇒犬山⇒美濃土田(現 岐阜県可児市土田)⇒日本ライン⇒犬山⇒美濃国鷺沼村(現 岐阜県各務原市)西町⇒栗栖村(現 犬山市)	・美濃土田：十三塚や石塚の露出した古墳などを見学 ・犬山：犬山城に登り、針綱神社宝物を見学 ・美濃国鷺沼村西町：二ノ宮神社境内の古墳を調査 ・犬山栗栖村：昨年発見したストーンサークルを調査	
			9	美濃⇒犬山⇒小牧	・美濃濃國鷺沼村西町：二ノ宮神社で本殿にあったというメンヒル様の石に梵字を刻したものを拓本 ・犬山⇒小牧山：途中、岩崎山の古墳やストーンサークルを調査。小牧町の小牧山に登る。ここで先日発見のストーンサークルを調査	
			10	小牧付近⇒名古屋⇒東京	・小牧附近、尾張神社、物部神社、その他古墳や採集品を見学	
第4回	1929	12	23	東京⇒名古屋	・龍次郎を助手として名古屋に向かう	鳥居龍蔵1929「尾張の旅より」『武蔵野』14巻6号 鳥居龍蔵1930「尾張の二日間」『武蔵野』15巻3号 鳥居龍蔵1930「尾張の二日間」『武蔵野』15巻3号
			24	名古屋⇒清州⇒中島郡三宅村⇒名古屋	・清洲市：東部の2ヶ所の貝塚で発掘(弥生式土器を発掘) ・中島郡三宅村：ストーンサークル⇒古木曾川の跡を見学 ・名古屋：鶴舞公園内の貝塚を発掘⇒夜、名古屋經濟會で「日本の有史以前に就いて」と題する講演	
			25	名古屋⇒尾張平野⇒東春日井郡(現 名古屋市守山区)志段味村⇒篠岡村(現 小牧西部)下末⇒篠岡村大山⇒名古屋⇒東京	・尾張平野：諸所の前方後円墳・円墳を見学 ・東春日井郡志段味村：東谷山山頂の前方後円墳・陪塚、その下の頂上の前方後円墳を見学。これらに埴輪を確認。また、中腹以上に、ストーンサークルやメンヒル、ドルメンと類似した巨石を発見 ・東春日井郡篠岡村下末：「陥を焼いた跡」を探す ・東春日井郡大山：大山峰正福寺趾を見学。山上ストーンサークル(安藤専七氏発見)を調査。仏像、古瓦などを見学。	
第5回	1930 (昭和5)	4	26	東京⇒愛知	—	鳥居龍蔵1930「三河通信」『武蔵野』15巻5号
			27	西尾	・ニラヤマ貝塚発掘(凹石、石剣、石斧、垂石、砥石等、骨鏃、薄手派の縄文土器、鹿猪の首の骨が出土)、國學院大學学生中川徳治氏が助手	
			28	西尾	・ニラヤマ貝塚発掘	
			29			
			30		・「大塚」を発掘 ・薬師禅寺の善光寺式阿弥陀三尊像見学	
			5	1	西尾	
2	西尾⇒名古屋	・八王子貝塚発掘				
3	名古屋⇒東京	・帰京				

表2 資料一覧

番号	資料名	注記	現在の地名	推定される出土遺跡	備考
1	弥生土器	高七寸八分 胴囲一尺九寸四分 口径二寸四分 宝飯郡小坂井町 字 川出清彦方出土	豊川市小坂井町		
2	封筒	幡豆郡 西尾貝塚 /名古屋市東区東魚町 中藤旅館 電話東 1392 番	西尾市	八王寺貝塚	3～5が入 られていた
3	縄文土器	厚サ 三河西尾上町	西尾市上町	八王寺貝塚	
4	弥生土器 底部?	西尾上町 貝塚	西尾市上町	八王寺貝塚	
5	弥生土器	西尾町 久麻久神社 下ノ社附近 壺	西尾市ハツ面町麗	久麻久神社	
6	縄文土器	大名倉字下谷	北設楽郡設楽町大名倉	大名倉遺跡	
7	縄文土器	大名倉字下谷	北設楽郡設楽町大名倉	大名倉遺跡	
8	縄文土器	名倉村大名倉字下谷	北設楽郡設楽町大名倉	大名倉遺跡	
9	弥生土器?	大名倉字下谷	北設楽郡設楽町大名倉	大名倉遺跡	
10	縄文土器?	土器ノ底 名倉村●●●名倉 字下谷	北設楽郡設楽町大名倉	大名倉遺跡	
11	縄文土器	名倉村●字大名倉字下谷	北設楽郡設楽町大名倉	大名倉遺跡	
12	縄文土器	名倉村大字大名倉 字下谷	北設楽郡設楽町大名倉	大名倉遺跡	
13	縄文土器	名倉村大字大名倉 字下谷	北設楽郡設楽町大名倉	大名倉遺跡	
14	縄文土器	名倉村 大名倉 字下谷	北設楽郡設楽町大名倉	大名倉遺跡	
15	弥生土器	周囲 名倉村大字大名倉	北設楽郡設楽町大名倉	大名倉遺跡	
16	弥生土器か	田口町笹平	北設楽郡設楽町小松笹平	笹平遺跡	
17	弥生土器	田口町笹平	北設楽郡設楽町小松笹平	笹平遺跡	
18	縄文土器	田口町笹平	北設楽郡設楽町小松笹平	笹平遺跡	
19	縄文土器	東納庫 字 宇連	北設楽郡設楽町東納庫字宇連		
20	縄文土器	東一東納庫一字連 田口町マサノサワ	北設楽郡設楽町小松マサノサワ	マサノ沢遺跡	
21	縄文土器	田口町マサノサワ	北設楽郡設楽町小松マサノサワ	マサノ沢遺跡	
22	縄文土器	田口町マサノサワ	北設楽郡設楽町小松マサノサワ	マサノ沢遺跡	
23	封筒	田口町採集拓本 / ●●●●	北設楽郡設楽町小松マサノサワ	マサノ沢遺跡	6～22が入 られていた
24	内行花文鏡	桜井 大字 東町 私有 八ツ●塚 桜井 大字 東町	安城市東町向田	八塚古墳	
25	弥生土器 体部～底部	桜井 二子古墳 厚サ二分 高サ一尺	安城市桜井町	二子古墳	
26	須恵器	口径三寸 高サ三寸三分 一番フクラミノ処 一尺二寸 桜井	—	—	
27	縄文土器	桜井 堀内貝塚	安城市桜井町	堀内貝塚	
28	縄文土器	桜井 堀内貝塚	安城市桜井町	堀内貝塚	
29	縄文土器	桜 桜井堀内 貝塚	安城市桜井町	堀内貝塚	
30	縄文土器	桜井 出土器	安城市桜井町	堀内貝塚	
31	縄文土器	桜井 出土器	安城市桜井町	堀内貝塚	
32	縄文土器	桜井 出土器	安城市桜井町	堀内貝塚	
33	封筒	碧海郡 桜井村 出土器 /名古屋市東区東魚町 中藤旅館 電話東 1392 番	安城市桜井町	堀内貝塚	24～32が 入られていた
34	縄文土器	上津具村 鞍舟	北設楽郡設楽町津具鞍船	鞍船遺跡	
35	縄文土器	上津具村 鞍舟	北設楽郡設楽町津具鞍船	鞍船遺跡	
36	縄文土器	上津具村 鞍舟	北設楽郡設楽町津具鞍船	鞍船遺跡	
37	縄文土器	上津具村 鞍舟	北設楽郡設楽町津具鞍船	鞍船遺跡	
38	縄文土器	上津具村 鞍舟	北設楽郡設楽町津具鞍船	鞍船遺跡	
39	縄文土器	上津具村 鞍舟	北設楽郡設楽町津具鞍船	鞍船遺跡	
40	縄文土器	上津具村 鞍舟	北設楽郡設楽町津具鞍船	鞍船遺跡	



图1 弥生土器



图2 封筒

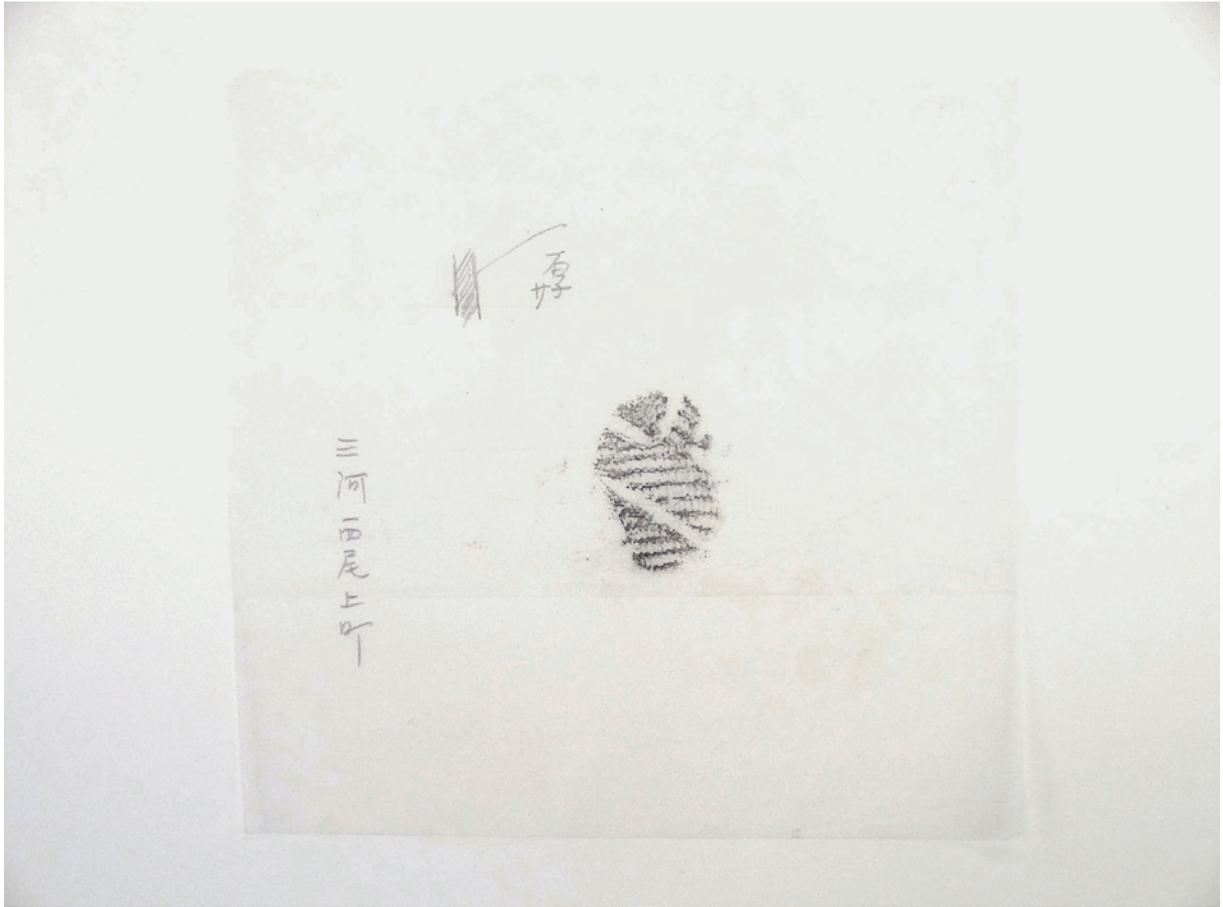


図3 縄文土器



図4 縄文土器

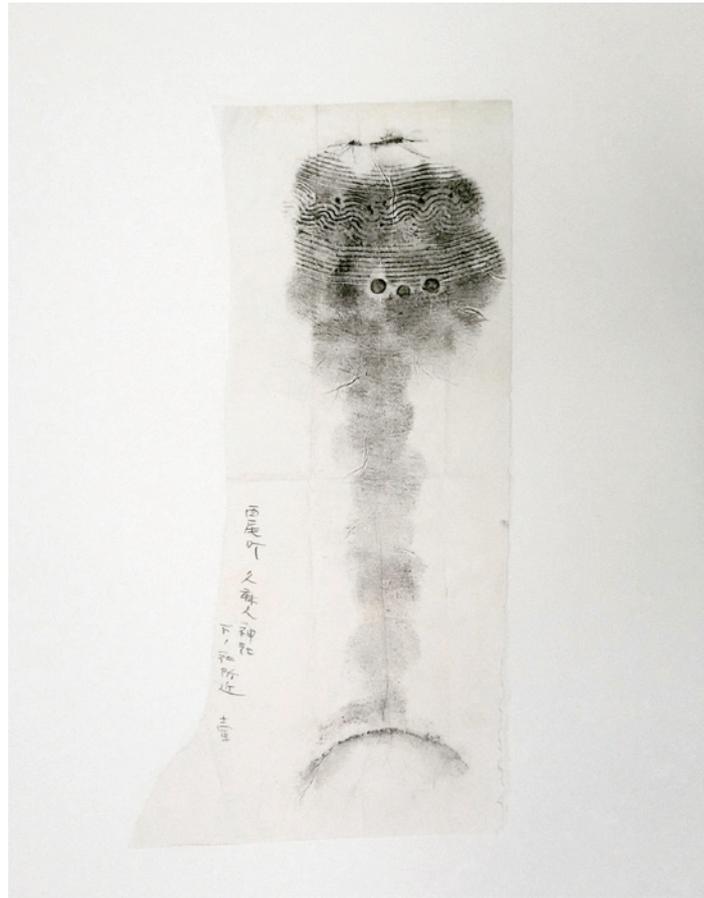


图5 弥生土器



图6 縄文土器



図7 縄文土器



図8 縄文土器



図9 縄文土器

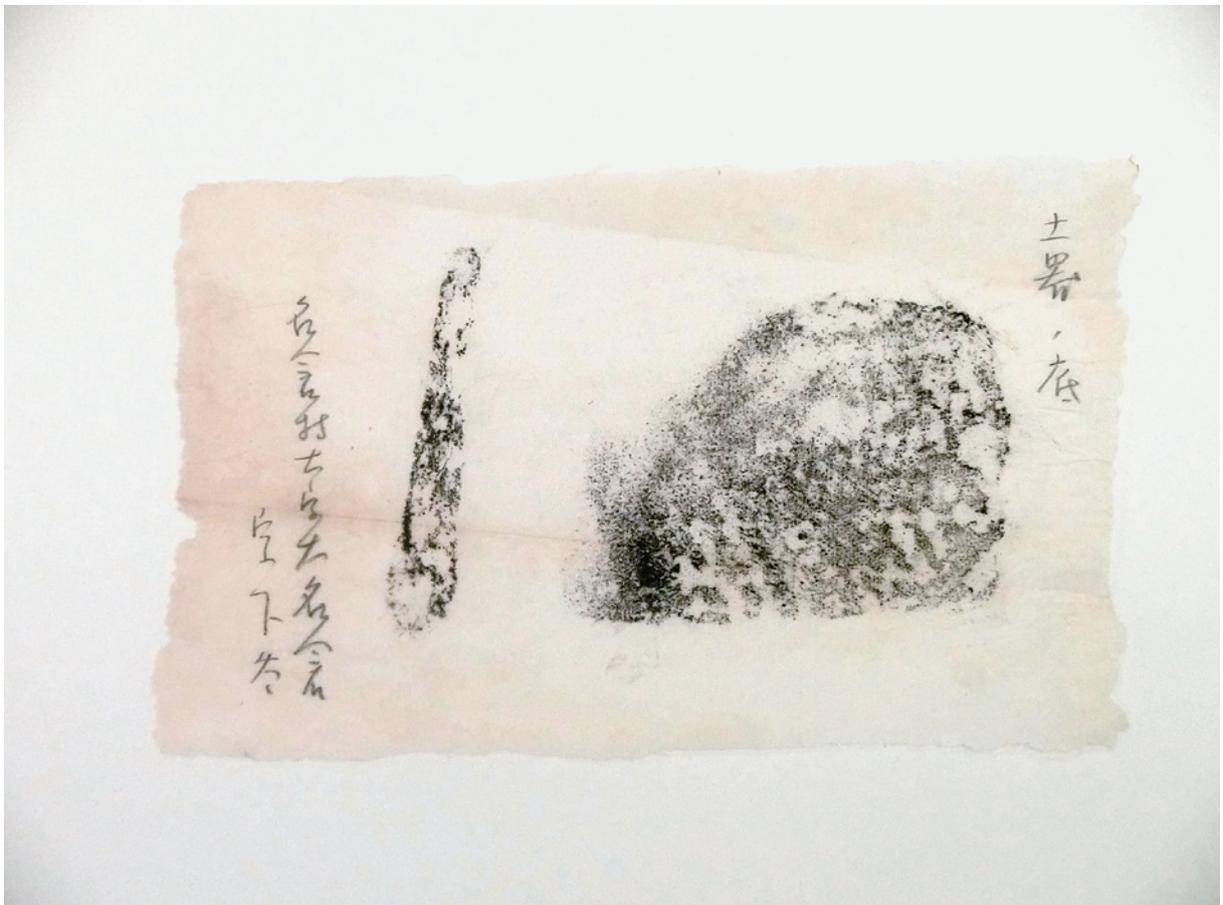


図10 縄文土器



図 11 縄文土器



図 12 縄文土器



图 13 縄文土器



图 14 縄文土器



図 15 縄文土器



図 16 弥生土器か

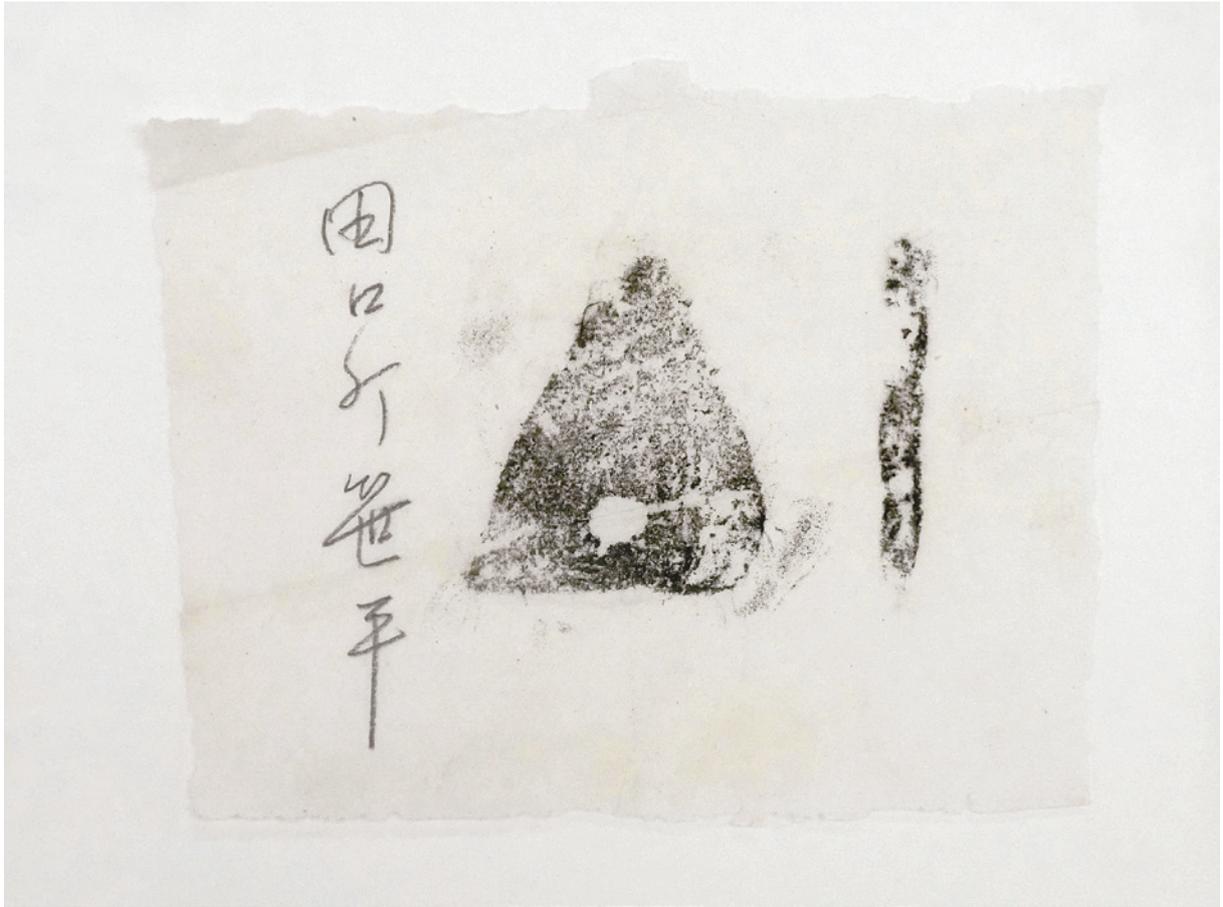


图 17 縄文土器

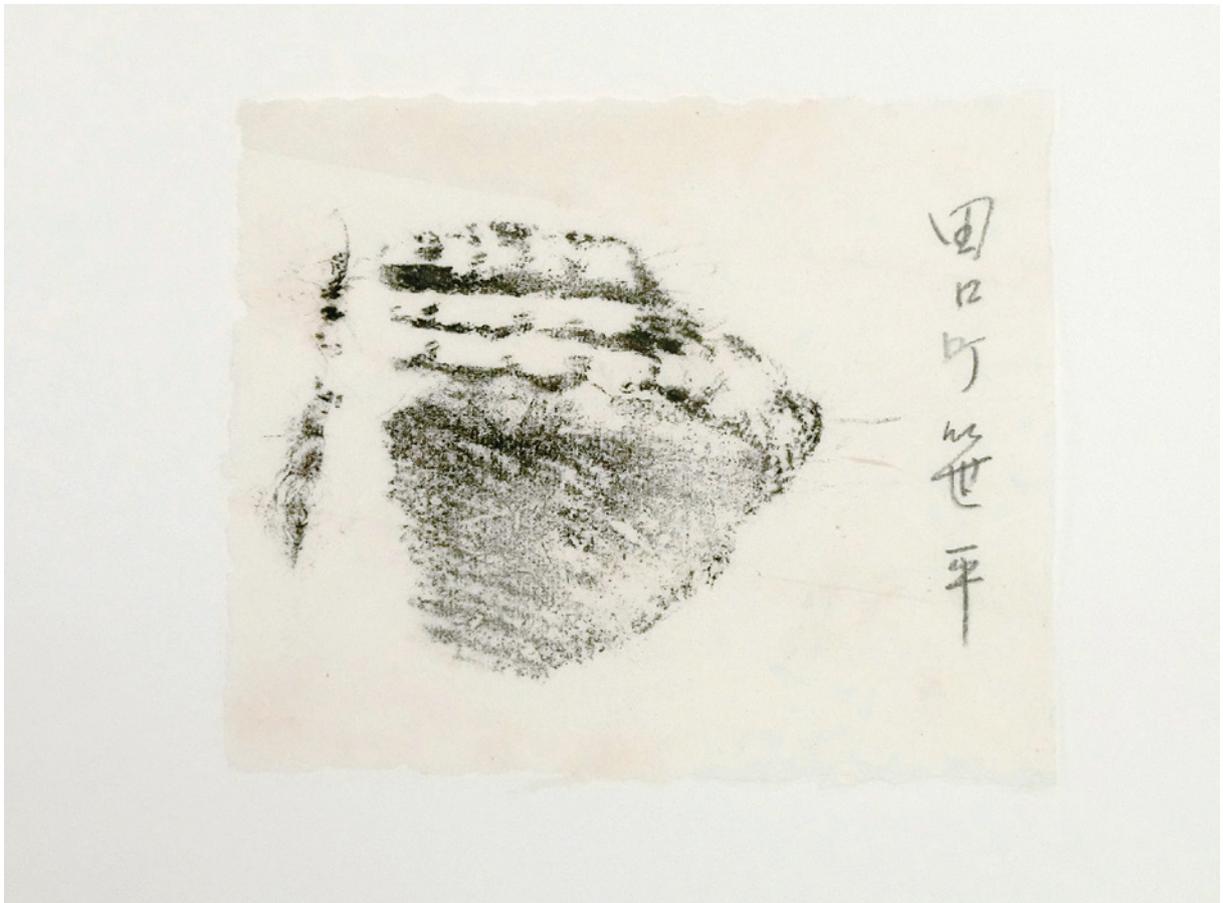


图 18 縄文土器



図 19 縄文土器

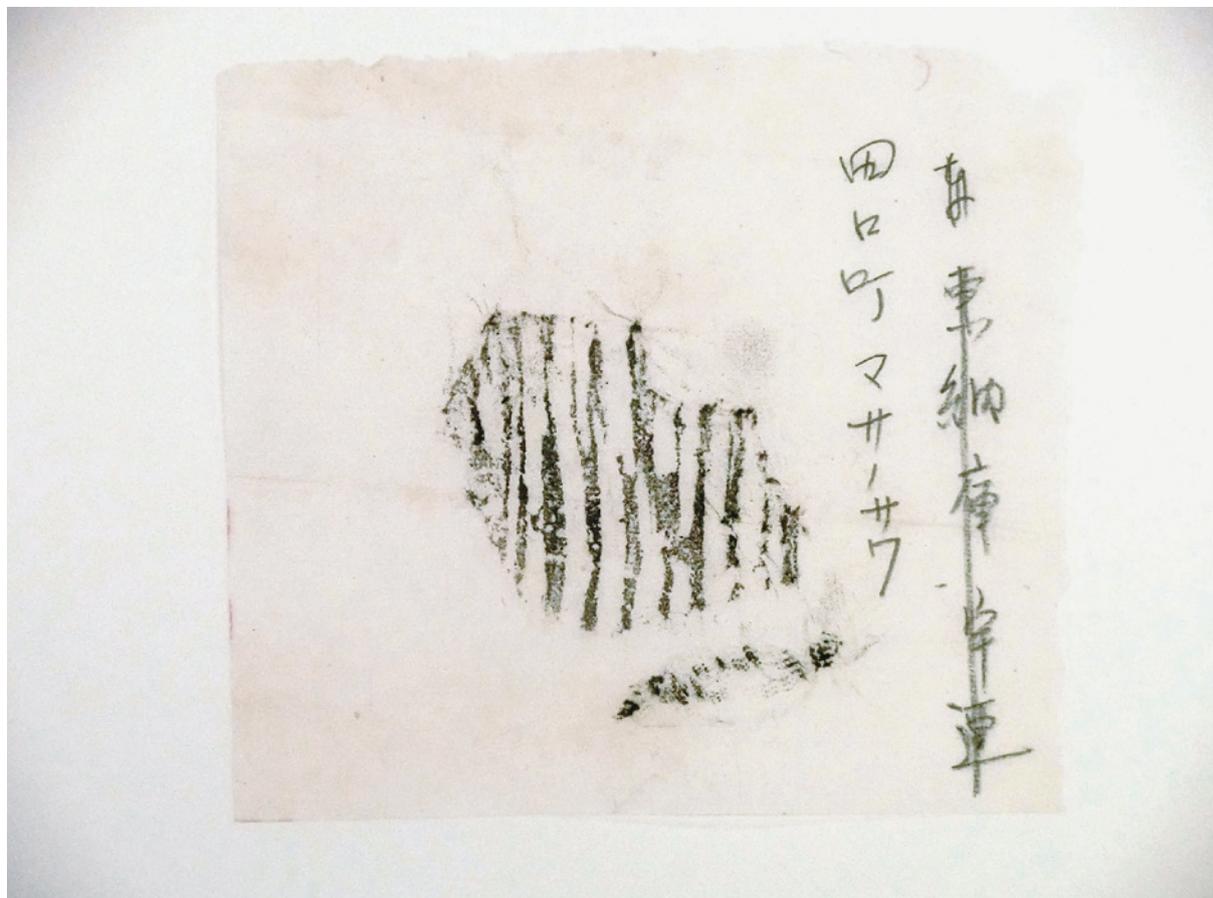


図 20 縄文土器



図 21 縄文土器



図 22 縄文土器



図23 封筒

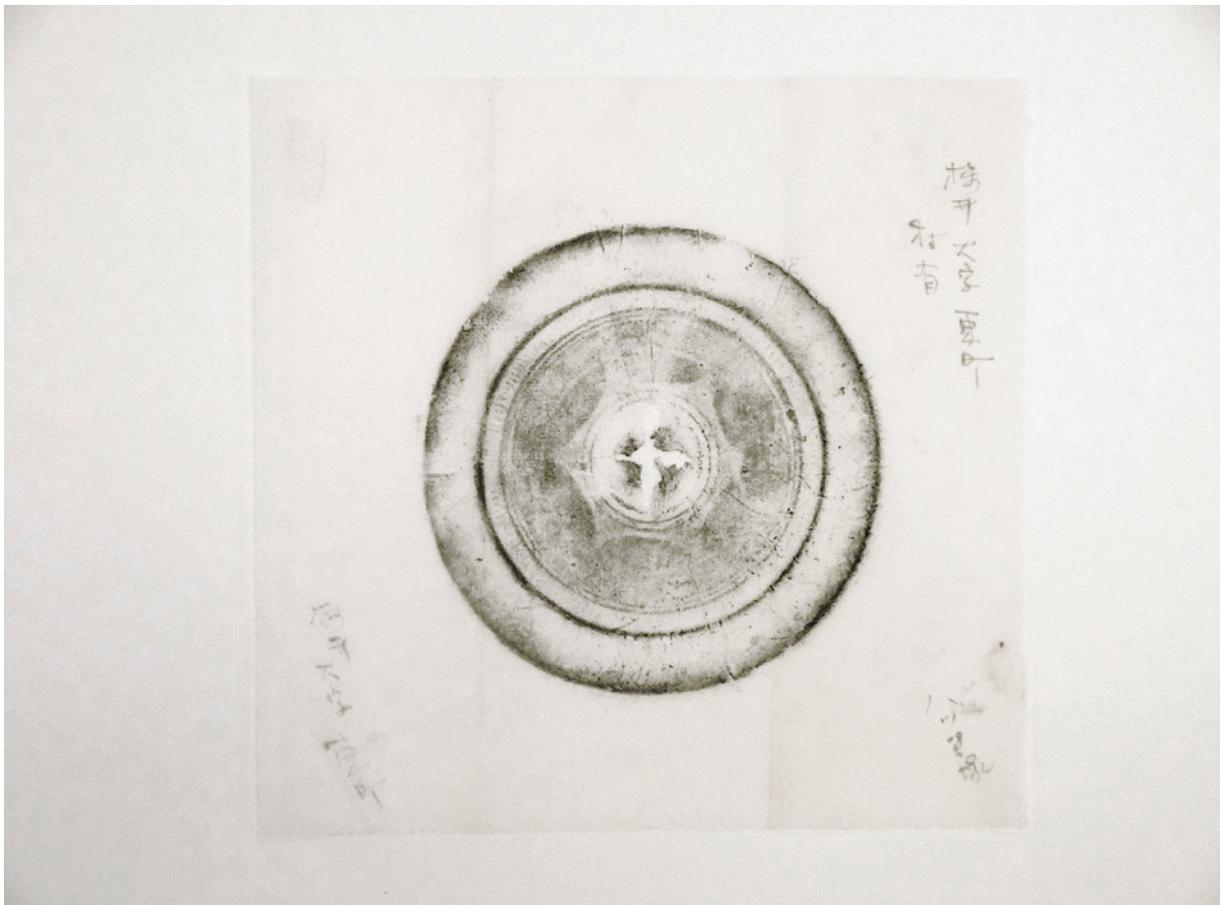


図24 内行花文鏡

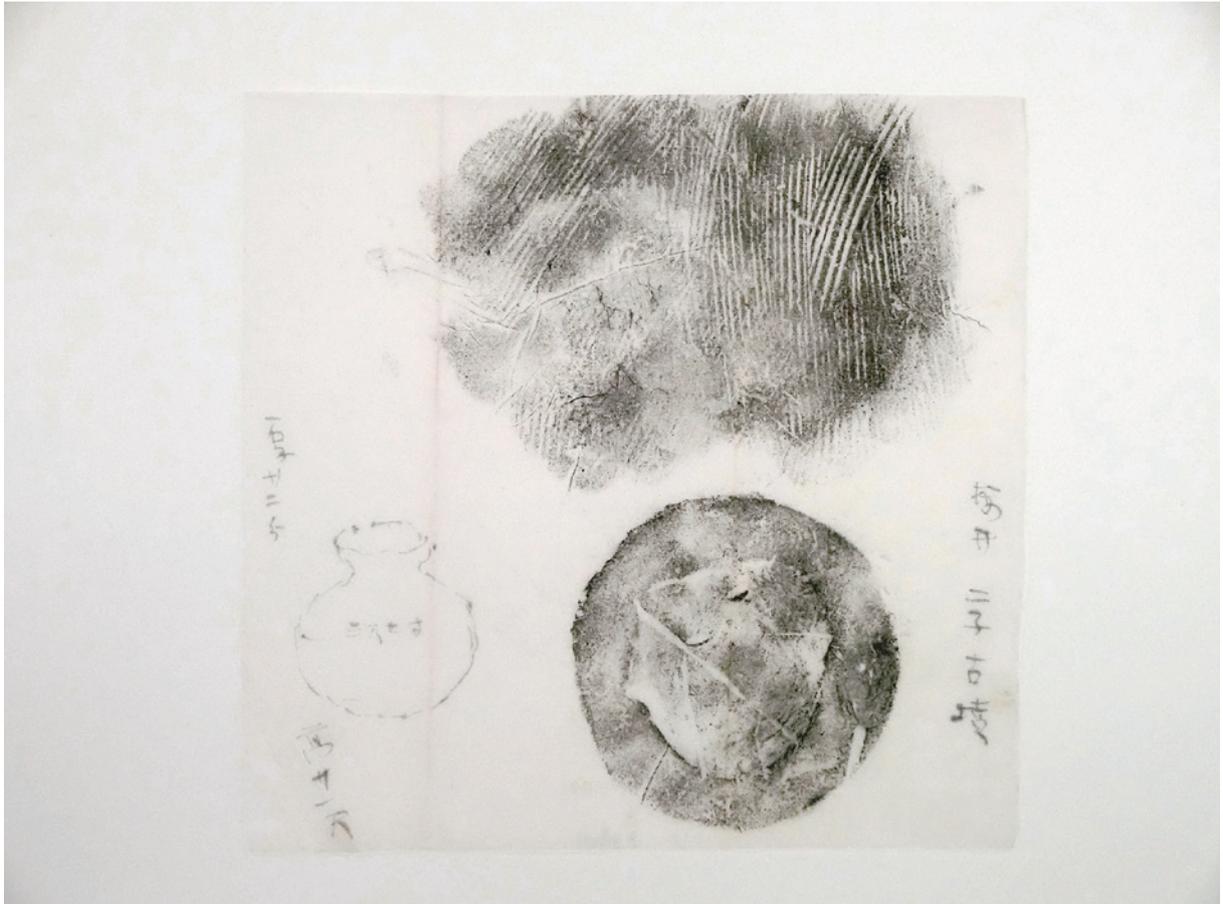


图25 弥生土器



图26 須恵器



図 27 縄文土器

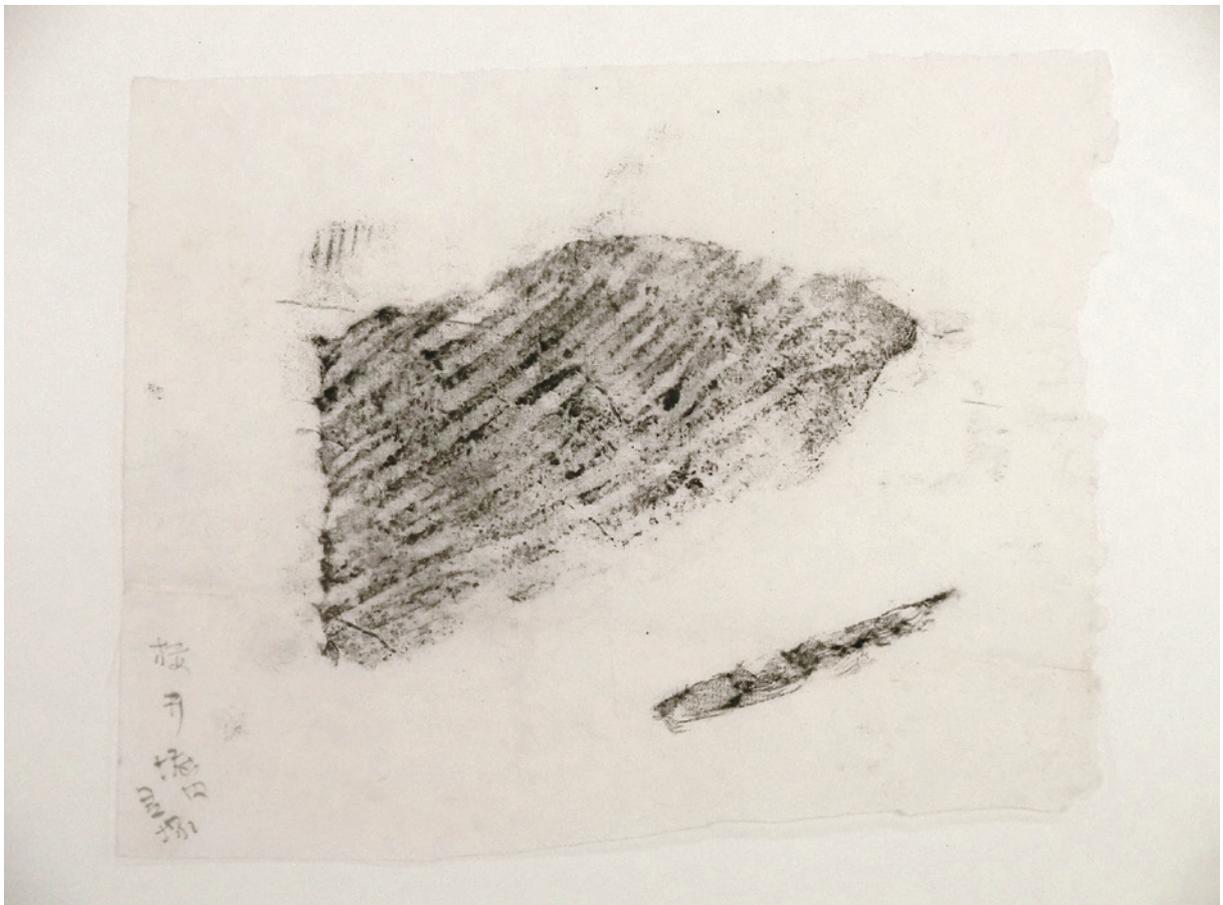


図 28 縄文土器



図 29 縄文土器

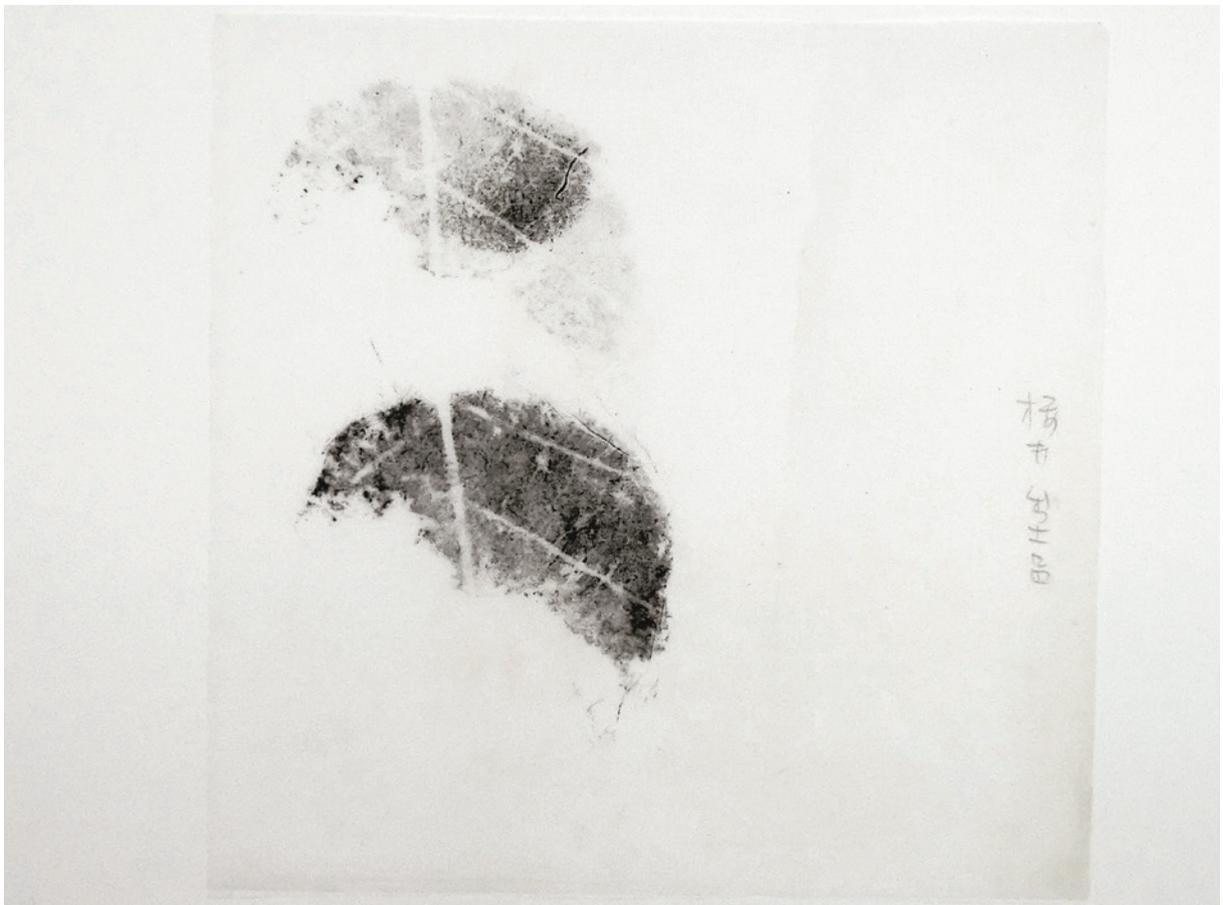


図 30 縄文土器



図 31 縄文土器

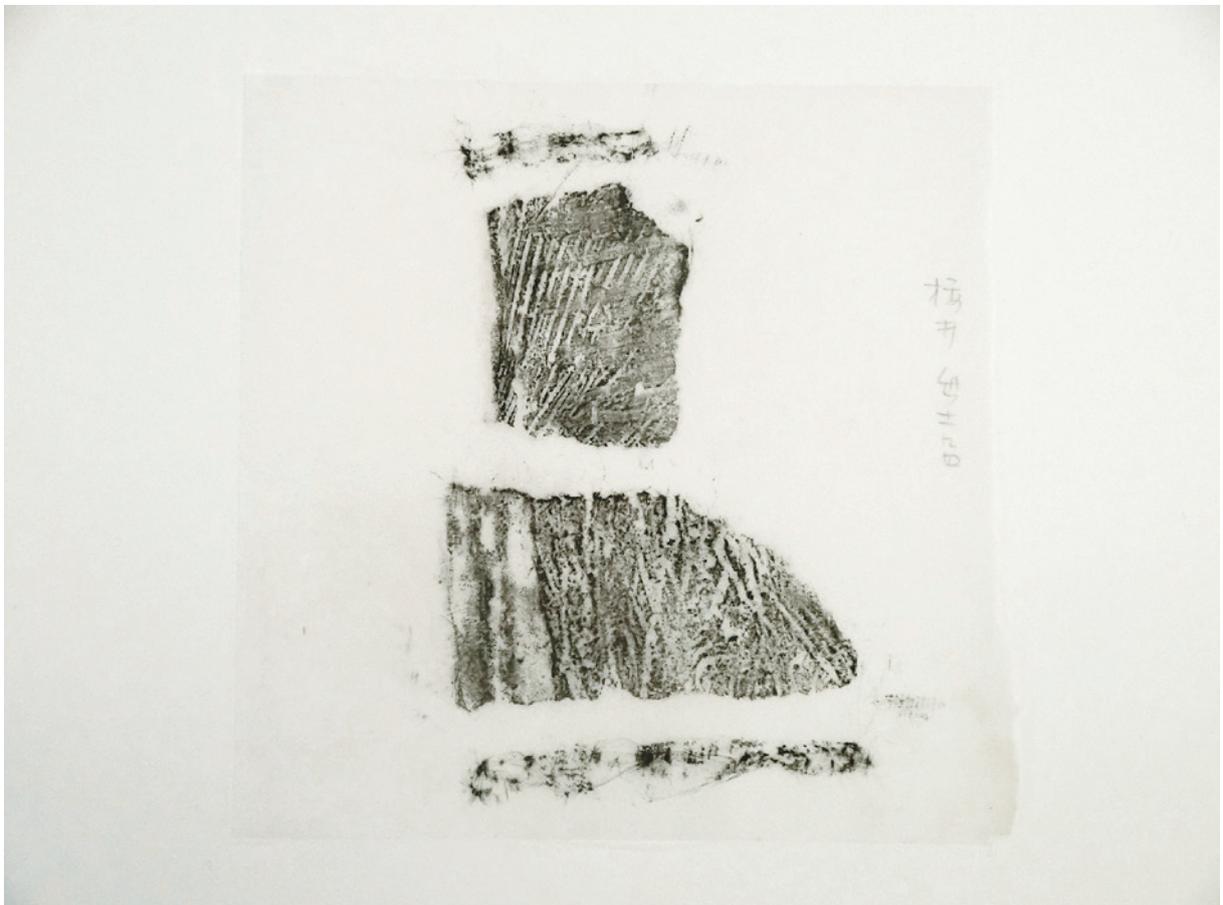


図 32 縄文土器

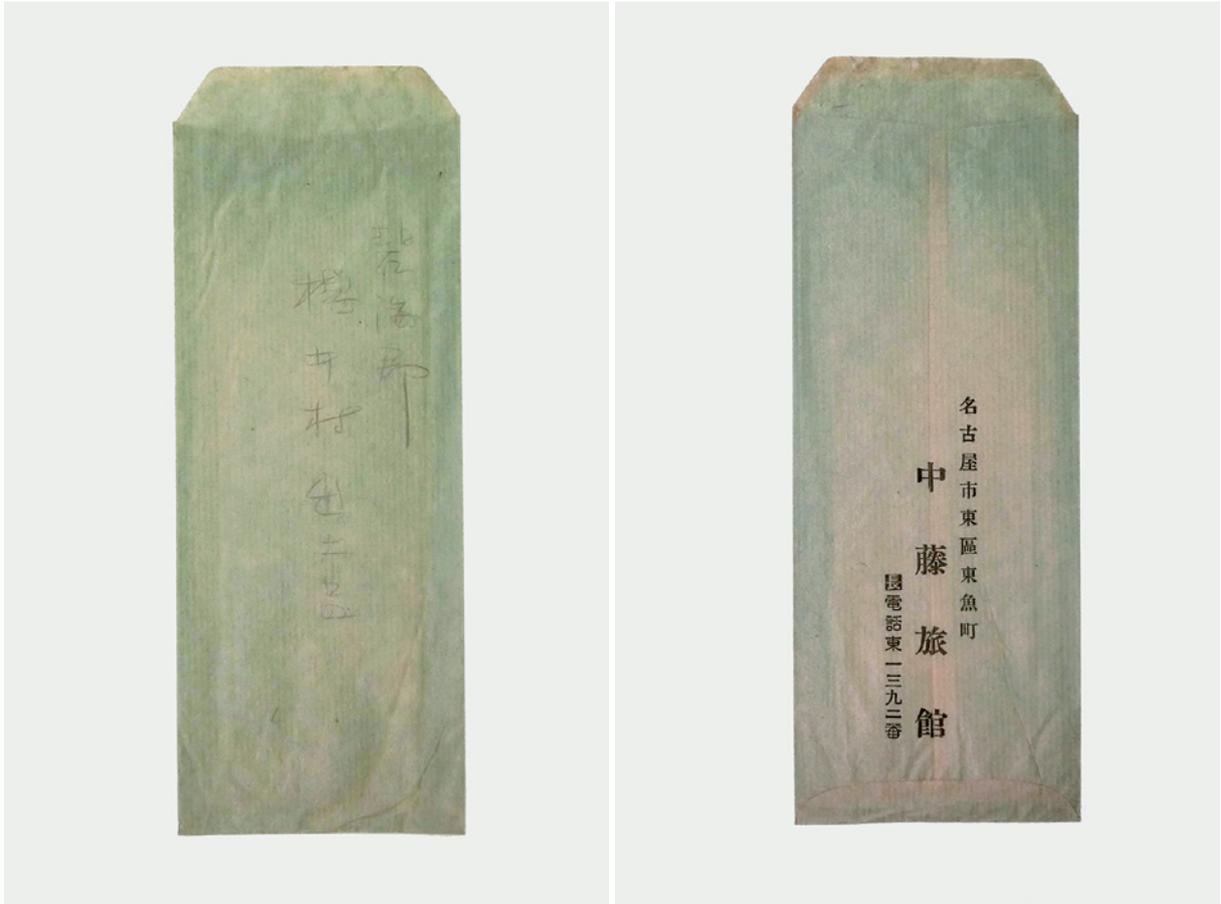


图 33 封筒



图 34 縄文土器

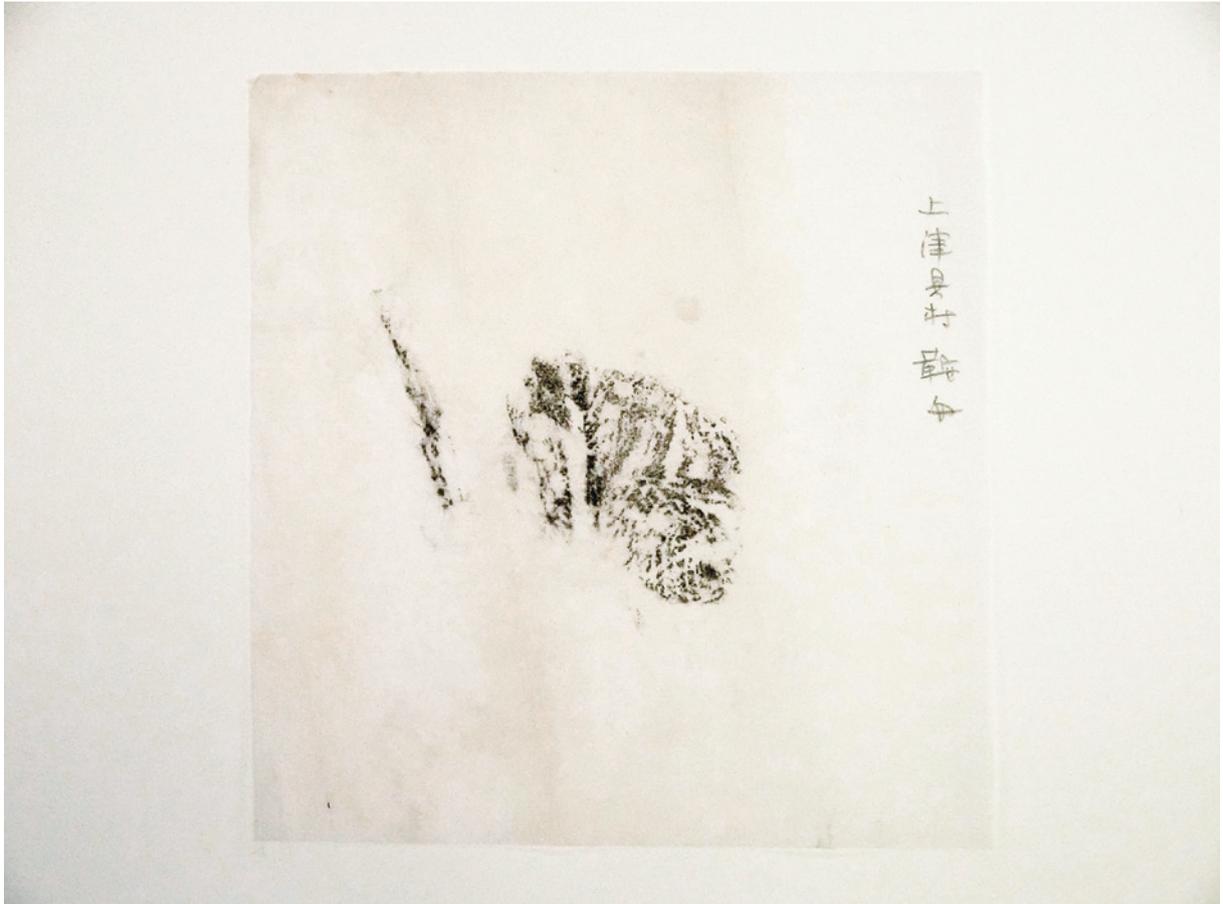


図 35 縄文土器



図 36 縄文土器

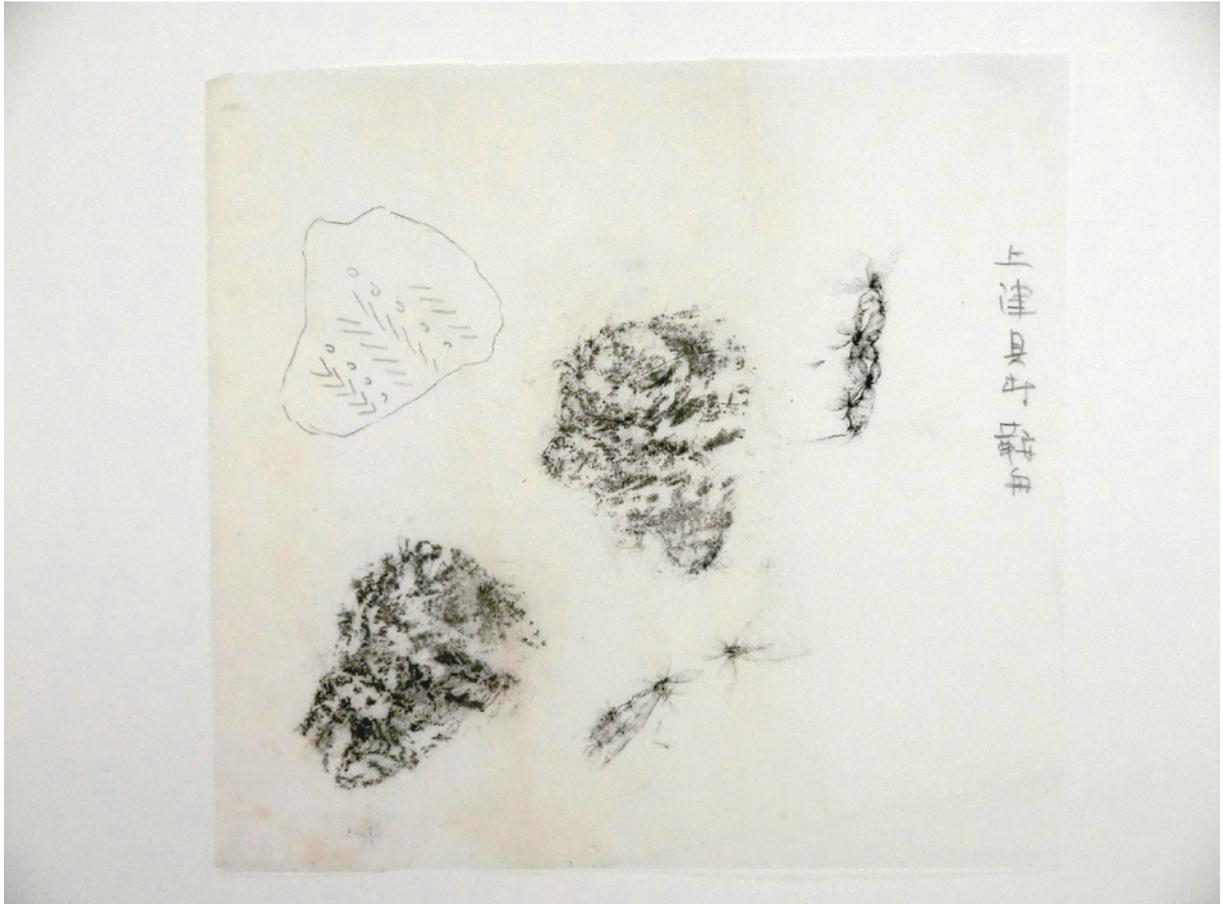


図 37 縄文土器



図 38 縄文土器

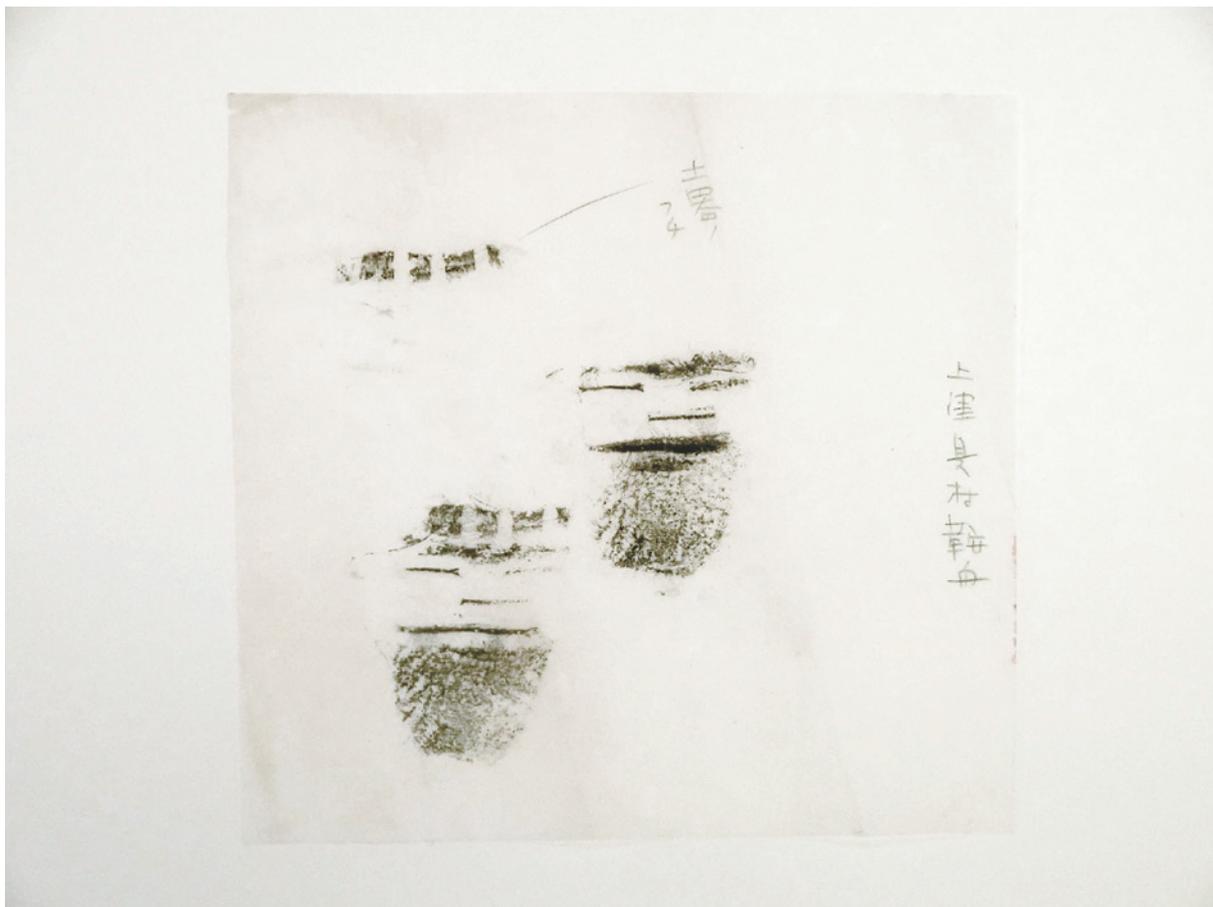


図 39 縄文土器



図 40 縄文土器